

日本の知恵、
プラスチックの知恵



国立国会図書館所蔵

風流人が愛した、湯沸し

栗田口善法は、豊臣秀吉が「名物狩り」と称する宝物品の献上にも応じなかった、室町時代の茶人として知られています。彼は茶の湯の開山といわれた村田珠光の弟子でしたが、高価な茶釜代わりに手取釜という鉄瓶の原型となった鍋で、日常の粥をつくり、客人には茶の湯をもてなすような風流人でした。その鉄瓶の噂を聞いた秀吉は、千利休に善法の元に向かわせましたが、秀吉の手に渡るくらいならと、善法は鉄瓶を岩に投げつけて壊してしまいました。

鉄瓶は銑鉄を高温で溶かし、砂や土の型に流し込んで成形する鋳物。その歴史は古く、16世紀末には鋳物の湯沸かし器として文献や絵巻物にも描かれています。

江戸中期には良質の砂鉄を産出する盛岡の南部藩が、土瓶形の茶の湯釜をつくると、鉄特有の臭いや味が出ないことから評判を呼び、「南部鉄瓶」として人気になりました。

住友ベークライトのフェノール樹脂もこの鉄瓶と同じように、形状や機能の自由度を上げて金型に流し込む成形法。耐熱性、強度、電気特性に優れた高機能プラスチック製品を生み出し、エレクトロニクスや産業資材の自動車部品などの進展に貢献しています。

鉄瓶

てつびん

